

学校 教育 目標	『つばさひろげ、自分で自分の生き方を切り拓いていく鳥が丘の子』 知 問題意識をもち、すすんで取り組み、最後までやりぬく子を育てます。 徳 人に対して、思いやりの心をもって行動できる子を育てます。 体 心や体を鍛え、自他の生命を大切にすることを育てます。 公 地域や身近な人々とのかかわりを通して、共に生きていく力を育てます。 開 コミュニケーション力を培い、社会への視野を広げます。				
	創立 47 周年	学校長 高田 桂太郎	副校長 太田 智樹	2 学期制	一般学級：17 個別支援学級：6
学校 概要	児童生徒数： 511 人 主な関係校： 領家中学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	領家中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
＜主体的に学ぶ力＞ ＜コミュニケーション力＞	領家中学校 西が岡小学校 鳥が丘小学校	認め合い、高め合い、未来をきり拓く子ども ・交流活動を通して、児童生徒自らが成長段階に応じた目標を見出し、自他のよさを認める豊かな心を育む。 ・具体的事例をもとにした教職員の連携により児童生徒理解を深めるとともに、継続的に人権意識を高めていく。

中期 取組 目標	○学校教育目標を実現するために、学校-家庭-地域が一体となって連携、協働しながら安全で楽しい学校づくりを目指します。 ・子どもが主体的に取り組める授業改善を推進し、学びの場を広げ学力の向上を図ります。 ・自尊感情を高め、一人ひとりの子どもが自分や相手を大切にしながら、楽しい学校生活を過ごせるようにします。 ・幼保小連携、小中一貫教育ブロックでの活動を推進し、「鳥が丘のまち」が一体となって子どもを見守る環境整備に努めます。 ・教職員相互の連携を推進し、業務の効率化を図り、教育活動の充実に努めます。
----------------	--

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①研究主題「主体的に学び、考えを深め合う子の育成」を基に、重点教科「算数科」を中心に各教科で、児童の表現力の向上を目指した授業を推進していく。②市学力・学習状況調査の「社会情動的コンピテンシー」を分析することにより、課題意識を大切に学習に授業を改善していく。③個別最適な学習を実現していくために、授業で児童が自己選択できる場面を設定していく。
担当	研究推進委員・各教科部	
徳	道德教育	①豊かな心の育成を目指して、道德科を要として学校の教育活動を通して行う道德教育では、特に児童の興味や関心に基づいた豊かな体験を通して学ぶ機会を設定する。 ②道德科年間指導計画に沿った、全学級の道德科授業公開を年間1回以上実施する。 ③道德科の授業を積極的に改善を行なうことで「生き方」に対する前向きな学びを目指していく。
担当	道德部	
体	健康教育	①職員と児童との話し合いを基に、心身ともに健康な生活を送ることができるよう家庭と連携し、外部講師などから専門的な正しい知識を学ぶことによって自他の体を大切にしようとする姿を目指す。 ②R7に引き続き、体力テストの結果をもとに、児童の運動状況に関する実態を理解し、「〇〇大会・週間」を継続させ、体力向上を目指したり運動の楽しさを味わったりできるような機会を設定する。
担当	体育部・保健部	
公開	自分づくり教育 (キャリア教育)	①子どもたち自らが積極的に地域と繋がることを大切にして、地域で体験的に学ぶ機会を設け、他者との関わりの中で自分の思いを表現しながら一人ひとりが自己有用感を高めるようにする。②「自分づくりパスポート」を活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、子ども自身が成長を実感できるようにする。
担当	特活部・生活総合部	
いじめへの対応		①いじめに対する高いアンテナを張り、積極的にいじめ認知し、子どもの心情に寄り添った指導をする。②月一回以上、定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の経過確認を丁寧に行うことで再発防止に努める。③日々の「共有タイム」では、簡潔に要点をまとめて児童指導事案を周知し、いじめの未然防止や再発防止に努める。④年2回のいじめ解決一斉キャンペーンでは、児童の変化を見逃さない体制づくりをし、職員全体でいじめに対する感度をあげていく。また、横浜プログラムを積極的に活用し、自分づくりスキルや仲間づくりスキルを上げる。
担当	児童指導部	
人材育成・ 組織運営(働き方)		①自分たちで年間計画を立て、学びたいことを考え、各教科領域の専門の教員に依頼することで、より縦の繋がりをつくっていく。 ②会議の精選に努め、必要な会議時間を最小限にできるようにしていく。話し合いのポイントを事前に提示し、会議時間事態を短くするようにする。 ③こまめに情報共有を行い、偏った負担がないかを意識しながら組織として動いていく。
担当	メンターチーム・教務部	
地域学校協働活動 (地域連携)		①児童の意見を取り入れながら、委員会活動を中心にあいさつ運動を見直し、積極的に取り組んでいく。学援隊の見守り活動は継続して頂き、児童が安心して登下校できるようにするとともに、挨拶や学校での取り組みを行うことで、より交流を深められるようにする。 ②総合的な学習や社会科、生活科や家庭科などの教科で、地域の方々と連携する際は、学習の目標を明確にし、どのような形で協力していたらどうか整理した上で実現していく。
担当	渉外委員会	
特別支援教育		①全教職員が特別支援教育の視点をもち、ユニバーサルデザインを取り入れることで誰もが安心して学校生活を送れるようにする。 ②生き生き、児童支援専任が中心となり、各関連機関に繋ぐことで最適な学びの場を選択できるように環境を整備していく。
担当	特別支援委員会	
多文化共生		①外国の言語や習慣、食べ物を紹介することで、全校児童の多文化共生の取組を推進していく。 ②校内の外国につながる児童の把握を年度始めに行う。また、国際教室の取り組みを全職員で共通理解する場を設ける。児童の様子や支援の様子など、担任と連携を取りながら進めていく。
担当		
担当		